

自転車国内販売動向調査月報ダイジェスト(平成24年7月)

当協会では、毎月全国100の標準自転車小売店を対象に、自転車の販売に関するアンケート調査を実施し、「自転車販売動向調査月報」としてとりまとめ発表しております。

平成24年7月の調査がまとまりましたのでその概況をお知らせします。なお詳しくは月報をご参照ください。

◎調査店1店当たりの販売台数

平成24年7月の1店当たりの新車販売台数は前月比109.2%の17.8台となり、前年同月比では0.4台減の97.8%となった。車種別でみると前月比で上回ったのがシティ車139.3%、ホーム車105.7%、折りたたみ車116.7%、幼児車175.0%であり、横ばいが子供車、電動アシスト車で、下回ったのがマウンテンバイク83.3%、スポーツ車87.5%である。前年同月比では上回ったのがシティ車111.4%、折りたたみ車116.7%、子供車108.3%、幼児車116.7%で、横ばいがマウンテンバイク、下回ったのがホーム車97.4%、スポーツ車80.8%、電動アシスト車81.3%である。

◎自店や他店の動向など調査店から寄せられたコメント

各店舗から寄せられるコメントは、「よい天気が続き、前年同月比125%であった」(北海道)、「7月は、毎年台数は出るものの低価格車が多い傾向だったが、今年は台数は減少したものの高価格の商品が多かった」(愛知)、「今月はホーム車ばかり続いて売れた。安物も目玉商品として置いてあるが、2万円台から5万円近くするような商品が売れた」(山口)など、安定した天候やボーナス商戦で好調な店舗がある一方で、「全然自転車が売れない…」(北海道)、「あまりにも暑さが厳しいので来店客も減少。景気もますます悪くなっていくように思われる」(福島)、「大変暇な毎日である」(岐阜)など、良くない店舗もあり、明暗が分かれている。

また、自転車の売り上げ減を補う修理に関するコメントでも、「夏本番、暑くなってパンク、タイヤ交換が増え修理売上げアップ」(埼玉)、「景気が悪く7月の動きは今までになくひどく、修理で救われている」(長野)、などに対して、「夏場、収入が見込めるタイヤ・チューブ交換の本数が伸び悩んだ。」(東京)、「ものが動かないのと、修理も少ない」(鳥取)など、修理でも好・不調が分かれている。

調査店1店当たりの販売台数(総合)

[全国9地域 店舗：100]

(平成24年7月)

[単位：台 構成比：%]

車種別	本月		前月		前月比	前年同月		前年同月比
	台数	構成比	台数	構成比		台数	構成比	
シティ車	3.9	19.7	2.8	15.2	139.3	3.5	17.2	111.4
ホーム車	7.4	37.4	7.0	38.0	105.7	7.6	37.3	97.4
折りたたみ車	0.7	3.5	0.6	3.3	116.7	0.6	2.9	116.7
子供車	1.3	6.6	1.3	7.1	100.0	1.2	5.9	108.3
幼児車	0.7	3.5	0.4	2.2	175.0	0.6	2.9	116.7
マウンテンバイク	0.5	2.5	0.6	3.3	83.3	0.5	2.5	100.0
スポーツ車	2.1	10.6	2.4	13.0	87.5	2.6	12.7	80.8
電動アシスト車	1.3	6.6	1.3	7.1	100.0	1.6	7.8	81.3
合計	17.8	89.9	16.3	88.6	109.2	18.2	89.2	97.8
中古車	2.0	10.1	2.1	11.4	95.2	2.2	10.8	90.9
総合計	19.8	100.0	18.4	100.0	107.6	20.4	100.0	97.1
モーターバイク	0.5	2.5	0.6	3.3	83.3	0.5	2.5	100.0

注：モーターバイクにおける構成比欄の数字は本月販売台数総合計に対する比率である。

次回8月の販売動向調査結果は9月下旬にHP掲載の予定。

財団法人 自転車産業振興協会